

■福岡/久留米市の実施報告

「金融経済教育公開授業 in 福岡 (久留米市) (櫛原中学校)」(10月28日開催)

久留米は、県の南西部・筑後地方に位置する、東西32キロ、南北16キロと東西に長く、九州一の大河・筑後川によって作られた広大な沖積(ちゅうせき)平野を持つ、人口30万人、農業・工業も盛んな中核都市です。そんな久留米市の東西のちょうど中央に位置しているのが、本校、久留米市立櫛原中学校です。緑豊かな耳納連山の麓から北へ筑後平野は開け、蕩々と中央を筑後川が流れる。弥生時代の集落跡である東櫛原今寺遺跡の上に建立されており、古代から人が住むのに適した土地である証といえます。また、地域は昔から、地域で子どもを育てよう、地域は結束し合おうという意識が強く、協力してくださる保護者や本校卒業生の保護者も多く、PTA活動も主体的に行われている。このような中、「主体的な学び、心豊かで、たくましく生き抜く生徒の育成」を教育目標とし、その達成に向け教育活動を行っています。

10月28日(木)に金融経済教育公開授業を開催し、全校生徒を対象に公開授業と、いちのせかつみ氏による講演会を行いました。

▼参加者内訳：

生徒 217名、教員 21名、教育委員会 10名、他校教員 20名、その他 5名
合計 273名

1. 公開授業

(1)「材料と加工に関する技術」

めあてを「揺れに強い構造にする方法について考えよう」と設定し、耐震構造について知り、値段や強度を考えて組み立てることができるようになる授業を行いました。金額や強度によって自分の目的にあった家を選ぶことを目的とし、既習事項である本棚や机の補強の仕方をもとにして、柱4本しかない状態の家をどう補強するかを考える活動を設定しました。

また、柱1本の値と限られた素材を設定して、安く済ませるのか、しっかり補強するのかを選択し、加工して耐震能力があるかを確認しました。まとめとして、本数を増やし安全を優先させるのか、本数を減らし経費を優先させるのか、目的やねらいをもとに使用する素材や組み方を考える活動を設定しました。本授業は、木の特徴を生かすことでコストが抑えられたり、強度が増したりすることを理解することにつながる授業となりました。

(2)「楽寿号に乗って」

めあてを「ボランティア活動をするときに大切なことを見つけよう」と設定し、作者がボランティア活動で体得した社会参画への意識について話し合い、ボランティア活動の意義を理解し、進んで人々の為に尽くそうとする実践意欲を高めることをねらいとして授業を行いました。生徒たちは、授業を通して、ボランティア活動は社会貢献になるだけでなく、経験することで自然と周りの人の気持ちを考えるようになっていたり、自信がついたりして、自身の成長にもつながることであるということに気づくことができました。本授業は、金融教育の勤労・ボランティア・寄付などの社会貢献の様々なあり方について考え、実践する態度を身に付ける力の育成につながる授業となりました。

(3) 「私たちの消費生活」

めあてを「消費者としてトラブルに巻き込まれないために必要なことを見つけよう」と設定し、身近な消費者トラブルにおける未然防止や実際に遭遇した場合の対処法方を考えさせる授業を行いました。前時に5つのトラブル事例を学び、本時では2つの事例を個人思考・ペア学習・班活動を仕組み、自分の考えだけでなく、他者の意見を知る場面を設定し、多面的に考える活動を設定しました。本授業は、お金を使うにあたって、今後のトラブル回避や未然防止につながる授業となりました。

(4) 「働くことの意義を深め、自己を見つめよう～職場体験学習を通して～」

めあてを「仲間と意見を交流し、「働くこと」の意義について考えよう」と設定し、職場体験学習の事前と事後における働くことの意義に対する意見交流を通して、その変容から考えを深める授業を行いました。生徒たちはダイヤモンドランキングを通して、職場体験において、働いている人との交流やインタビュー活動、そして体験できた仕事等から、どのような学びがあり、自分の中でどのような考えの変化があったのか、積極的に意見を述べあう場面が見られました。本授業は、金融教育の視点から、勤労の意義について理解を深め、地域や社会に貢献する意識が高まる授業となりました。

(5) 「関数 $y = ax^2$ 」

めあてを「宅急便で荷物を送るときどちらがお得か、わかりやすく説明しよう」と設定し、表やグラフをもちいて考察する授業を行いました。本授業は、金融教育の4つの分野のうち、A：生活設計・家計管理に関する分野で、荷物の大きさと料金が関数関係になっており、グラフを見ながら、大きさの範囲によって、どちらがお得に荷物を送ることができるのか、小集団活動において、グラフを使いながらお互いに説明する等の話し合う場面を仕組みました。その後、全体交流の中で、「一つの荷物だと100円くらいの差だが、これが10個、100個…増えるとどうか」という発問を行い、実生活とのつながりを意図した場面を考えさせることで、子ども達は計画的にお金を使う態度を身に付けることにつながる授業となりました。

(6) 「私たちの暮らしと経済」

めあてを「30代のライフプランを考えよう」と設定し、所得を使い、どのように生活をすれば、理想とする人生を送れるのかを考える授業を行いました。前時で考えた20代のシミュレーション（年間消費や非消費支出を意識して作成）と比較し、30代では結婚、子育て、住居、自動車といった転機があることも想定しながら、よりリアルなシミュレーションを行いました。これらのことより、将来どのようにお金を有意義に使うのかを具体的に考える授業となりました。

2. 研究発表

本校は、教育目標「主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く生徒の育成」の具現化に向け、重点教育目標を『「なりたい私」像と「つながる私たち」像をもつ生徒の育成』とし、教育活動を取り組んでいます。金融教育研究校の委嘱を受けたことは、本校生徒が、なりたい自己の実現に向かって、自分自身のくらしや社会を見つける力をつける実践を充実させる上で絶好の機会であると捉え研究を行いました。具体的には、研究主題を「主体的に学びに向かい、共に学ぶ生徒の育成～金融教育の視点を取り入れた課題設定の工夫を通して～」とし、金融教育の研究に取り組みました。

また、本校では、生徒の発達段階を踏まえ、金融教育における「A：生活設計・家計管理に関する分野」「C：消費生活・金融トラブル防止に関する分野」「D：キャリア教育に関する分野」の観点から、金融教育を柱として年間指導計画を作成し、全教科・全領域での授業実践に取り組みました。

研究から見てきた成果については、以下の通りです。

- 主体的に学びに向かい、自ら問題を解決しようとする生徒の育成を図ることができた。
- これまでの教科の授業と金融教育との関連を意識して実践することができた。
- 自ら学びを創り続けると共に、共に学ぶ生徒の姿が見られる場面が増えた。
- お金と生活に関する意識が高まった。

また、今後の取組の方向性については、以下の2点です。

- 金融教育を柱とした年間指導計画の見直しを行い、教科等の横断的な指導実践の定着を図る。
- 金融教育に全教科・全領域での取り組みを進めてきたが、学校における金融教育の考え方についての理解をさらに深めるため、継続して研修を実施していく必要がある。

3. プログラム

13:30~14:20 公開授業

- (1)「材料と加工に関する技術」(1年生 技術・家庭科 技術分野)
- (2)「楽寿号に乗って」(1年生 道徳科)
- (3)「私たちの消費生活」(2年生 技術・家庭科 家庭分野)
- (4)「働くことの意義を深め、自己を見つめよう～職場体験学習を通して～」(2年生 総合的な学習の時間)
- (5)「関数 $y=ax^2$ 」(3年生 数学科)
- (6)「私たちの暮らしと経済」(3年生 社会科)

14:40~15:10 開会行事

- (1) 開会のことば
久留米市立櫛原中学校 教頭 内山 耕次
- (2) 会場校あいさつ
久留米市立櫛原中学校 校長 松岡 満廣
- (3) 久留米市教育委員会あいさつ
久留米市教育委員会 教育長 井上 謙介
- (4) 研究の概要
久留米市立櫛原中学校 校内研修担当 徳田 睦美

15:15~16:20 講演

- (1) 演題:「中学校における金融経済教育の考え方・進め方」
講師:いちのせ かつみ 氏
- (2) 謝辞 久留米市立櫛原中学校 校長 松岡 満廣

16:20~16:25 閉会行事

- (1) 主催者あいさつ
福岡県金融広報委員会 事務局長 原田 幸一郎
- (2) 諸連絡
- (3) 閉会のことば
久留米市立櫛原中学校 教頭 内山 耕次